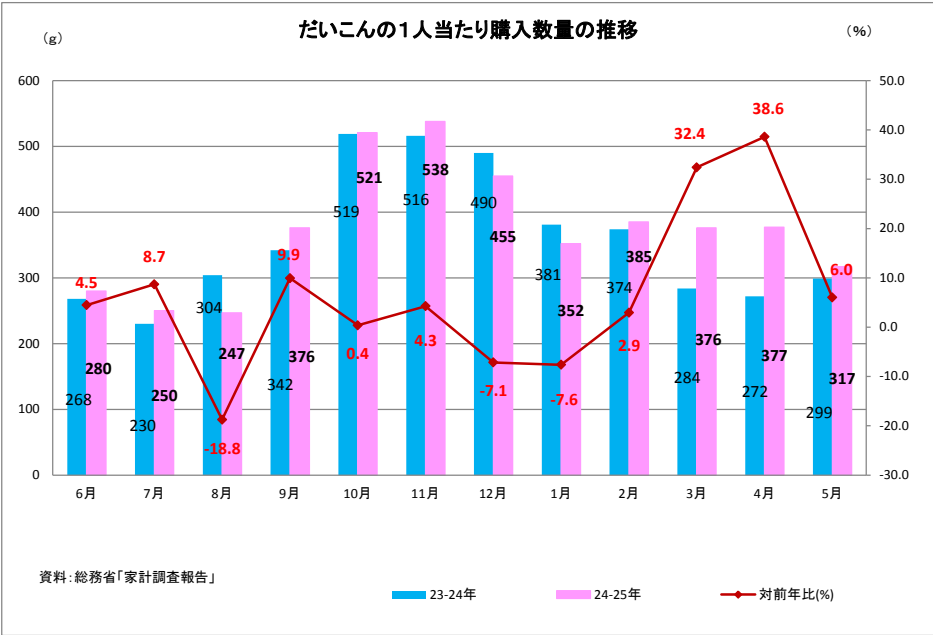
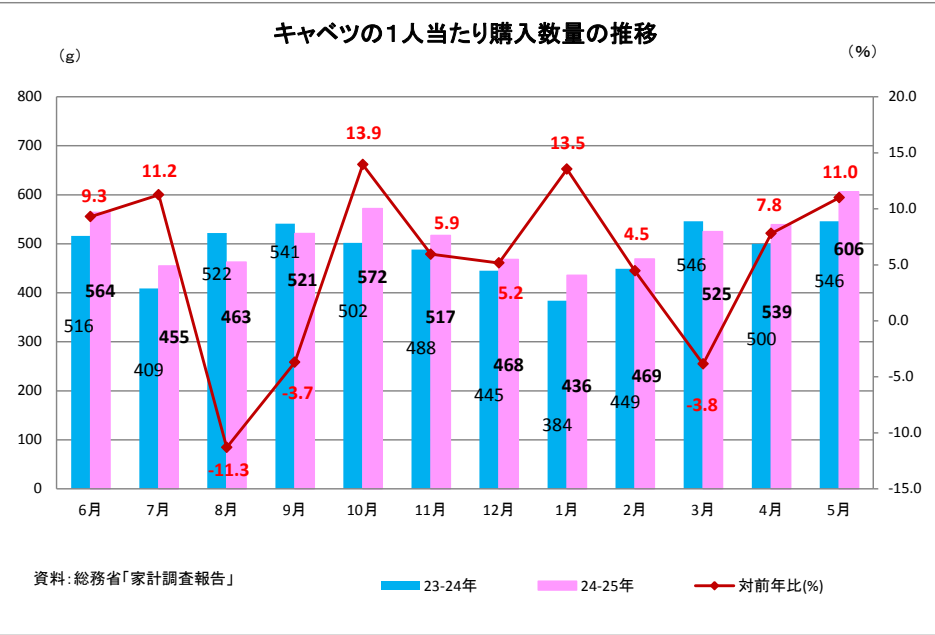
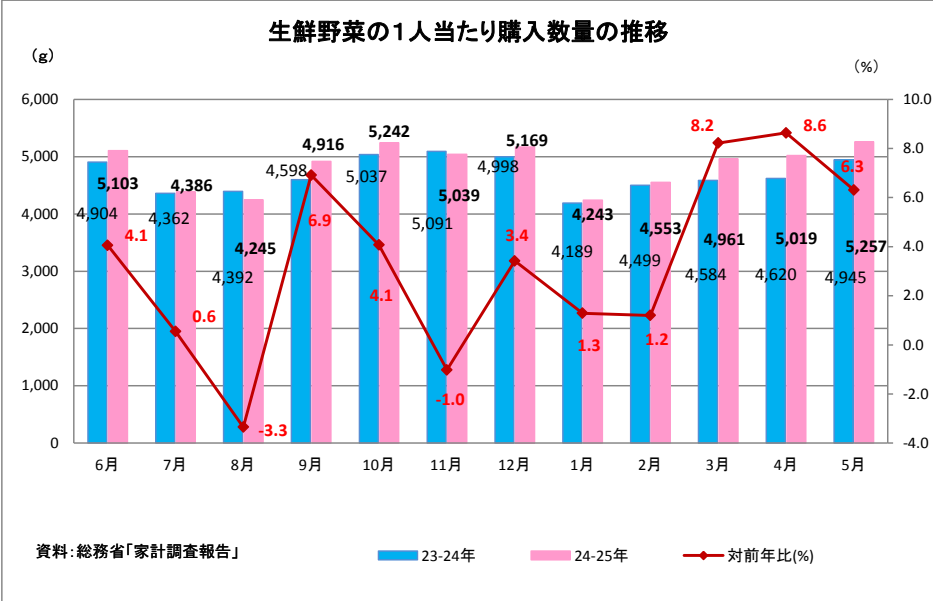


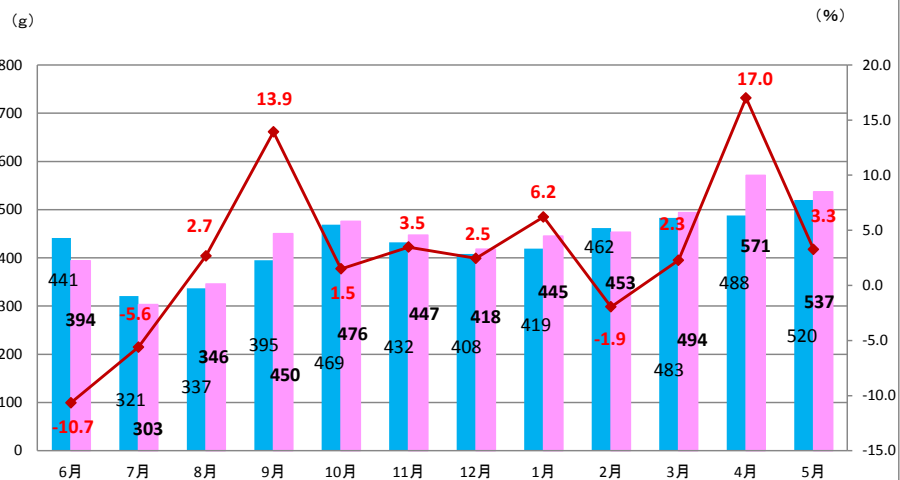
野菜の消費関連資料

1 1人当たり購入数量の推移

- ・ 生鮮野菜の購入数量は、8月の猛暑により根菜類と葉茎菜類の消費が減退したことから、8月が前年を下回って推移。
- ・ 3月及び4月は前年が低温・少雨の影響により高値で購入数量が少なかったことから、前年をかなり上回った。



たまねぎの1人当たり購入数量の推移



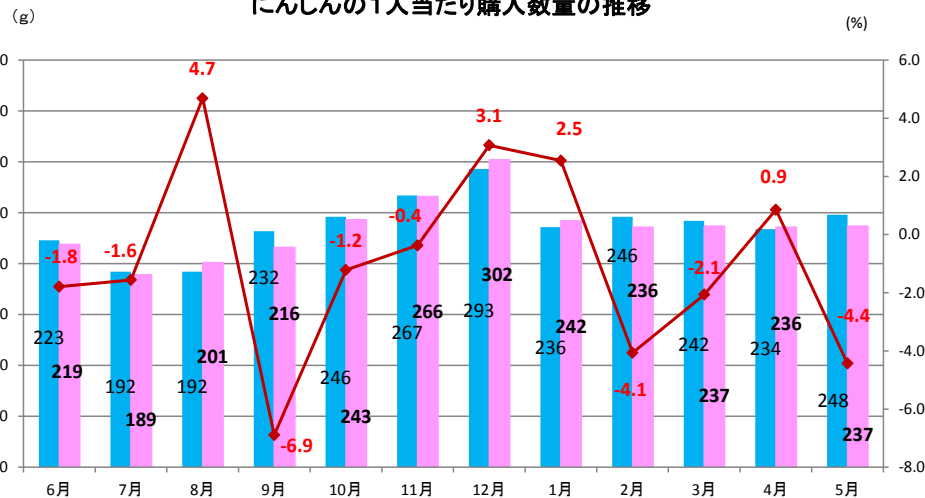
資料:総務省「家計調査報告」

■ 23-24年

■ 24-25年

—●— 対前年比(%)

にんじんの1人当たり購入数量の推移



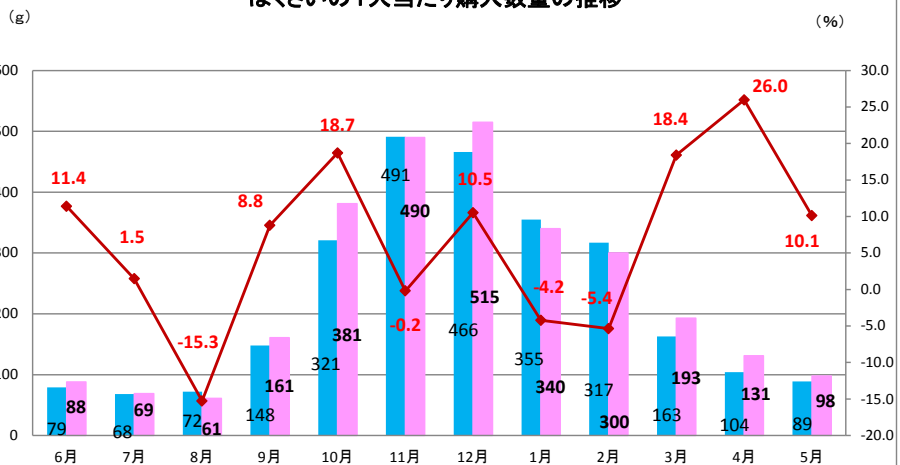
資料:総務省「家計調査報告」

■ 23-24年

■ 24-25年

—●— 対前年比(%)

はくさいの1人当たり購入数量の推移



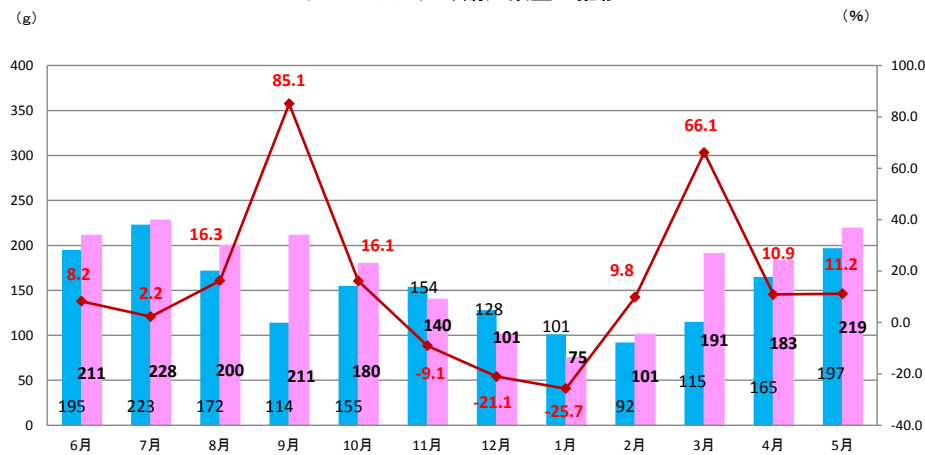
資料:総務省「家計調査報告」

■ 23-24年

■ 24-25年

—●— 対前年比(%)

レタスの1人当たり購入数量の推移



資料:総務省「家計調査報告」

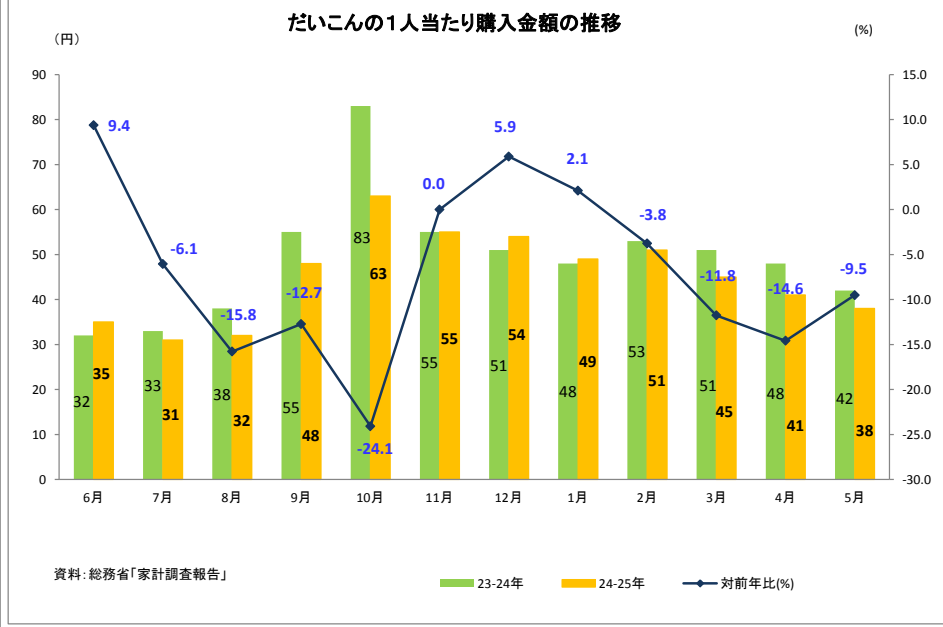
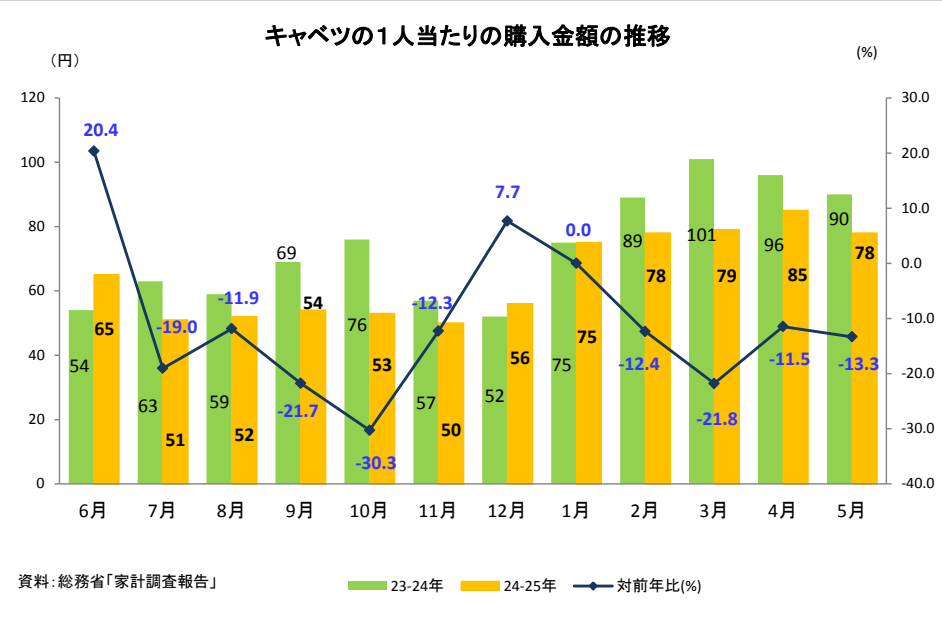
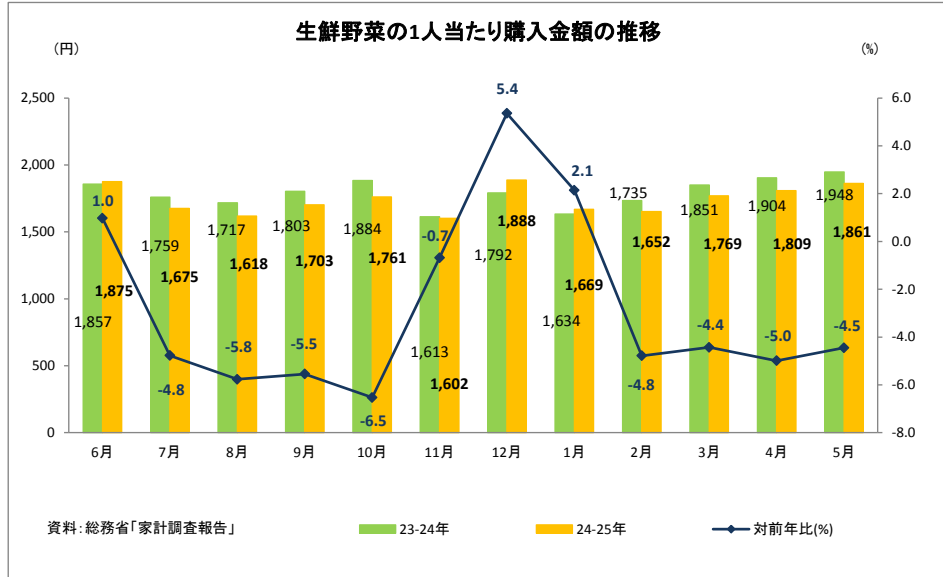
■ 23-24年

■ 24-25年

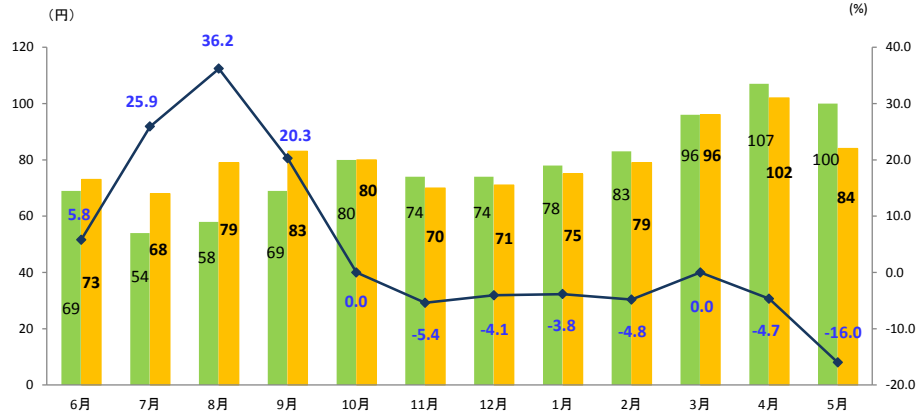
—●— 対前年比(%)

2 1人当たり購入金額の推移

- ・生鮮野菜の購入金額は、6月、12月及び1月は、低温・少雨等の影響により前年を上回ったものの、7～11月は、好天により野菜の生育が順調で安値で推移したことに加え、猛暑により8月の購入数量が減少したことから、前年を下回った。
- ・2月以降、気温の上昇によりキャベツ、だいこん、はくさい及びレタスの生育が順調であったことから、高値であった前年をやや下回った。



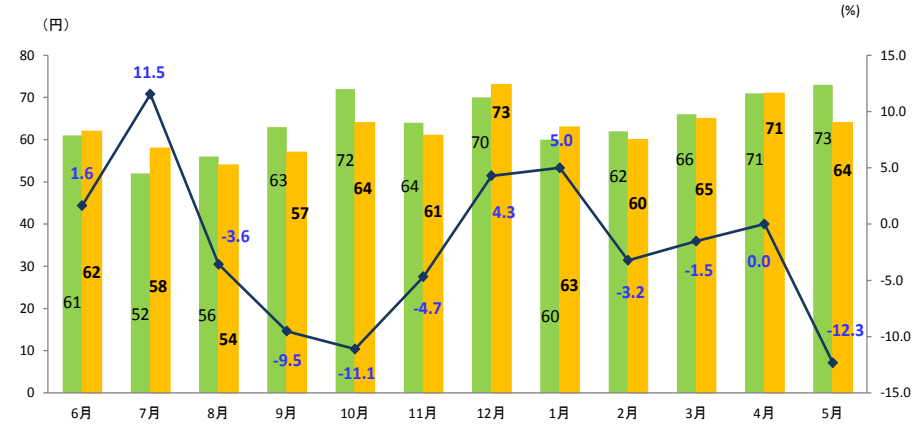
たまねぎの1人当たり購入金額の推移



資料: 総務省「家計調査報告」

■ 23-24年 ■ 24-25年 ◆ 対前年比(%)

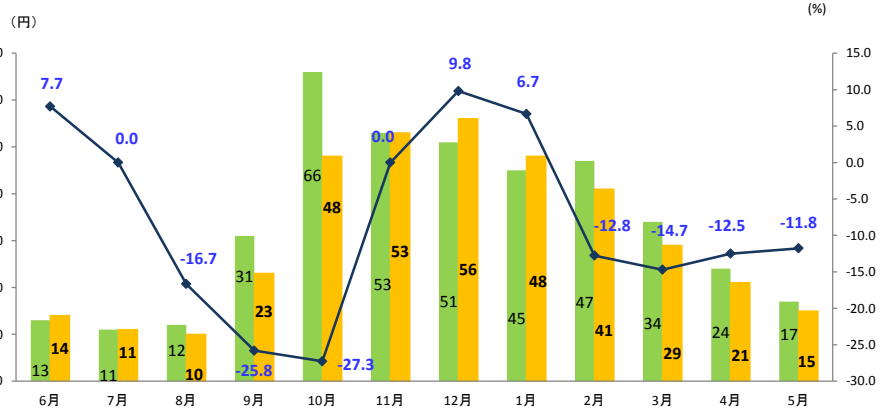
にんじんの1人当たり購入金額の推移



資料: 総務省「家計調査報告」

■ 23-24年 ■ 24-25年 ◆ 対前年比(%)

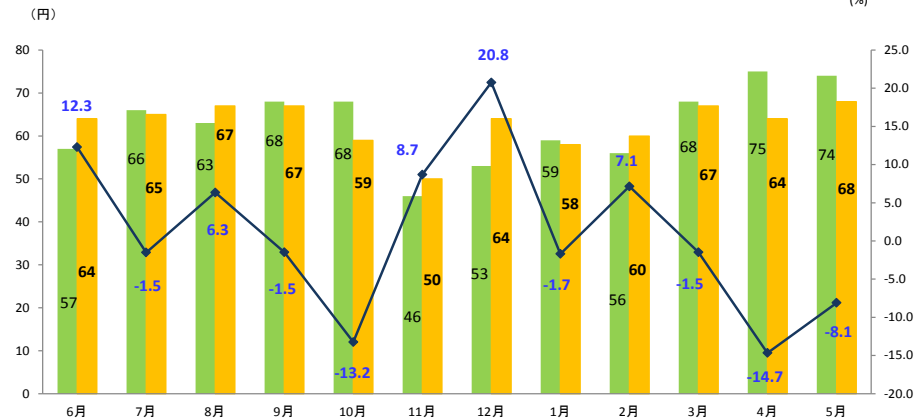
はくさいの1人当たり購入金額の推移



資料: 総務省「家計調査報告」

■ 23-24年 ■ 24-25年 ◆ 対前年比(%)

レタスの1人当たり購入金額の推移

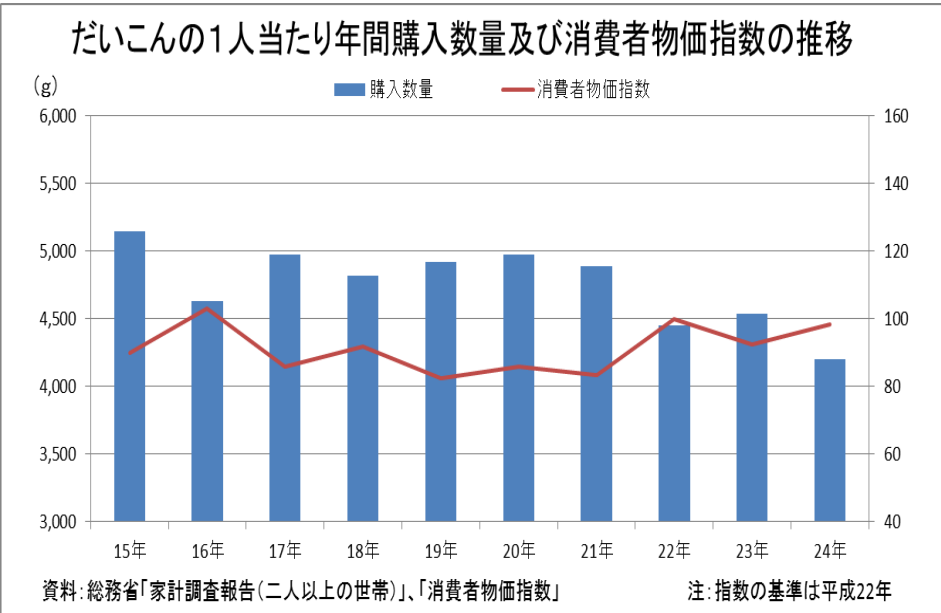
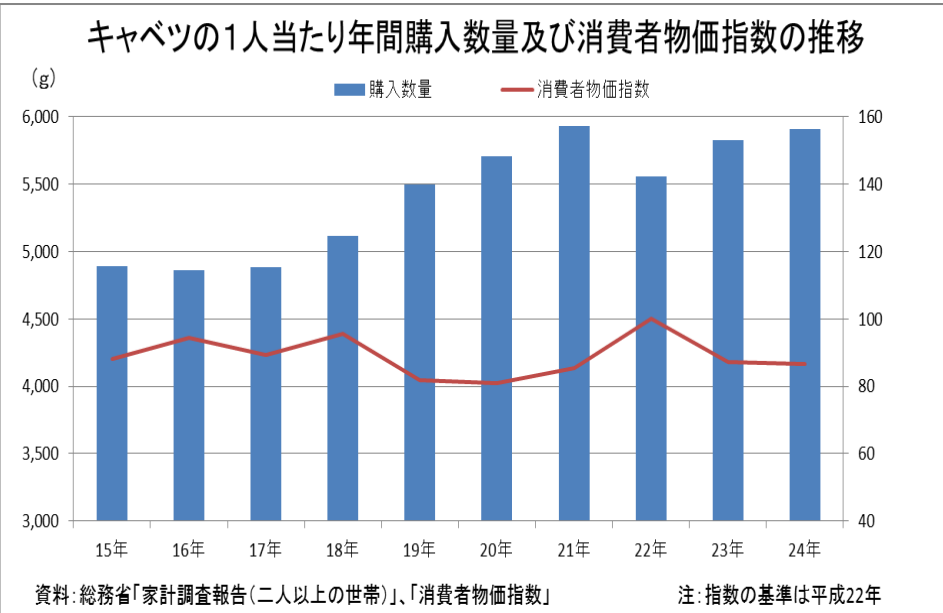
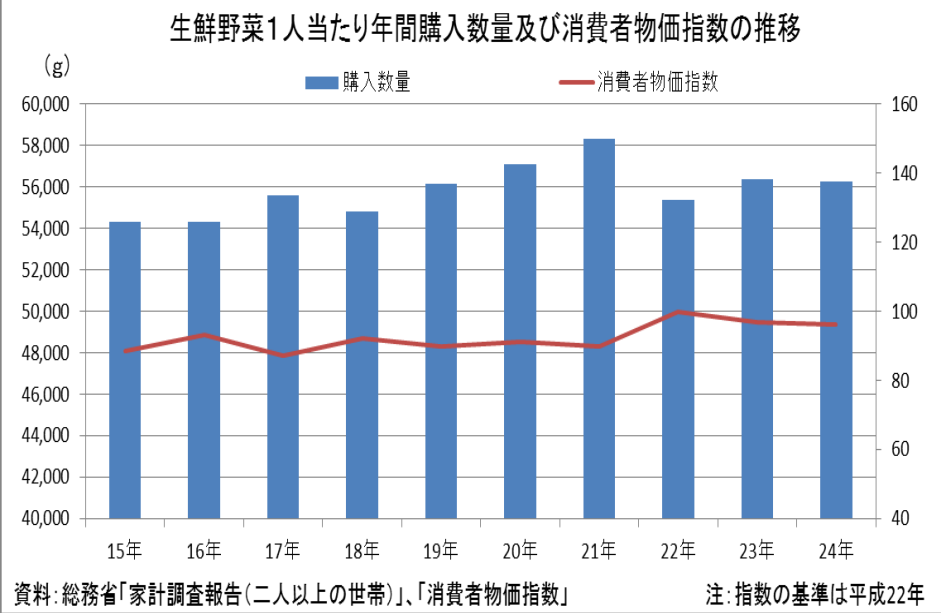


資料: 総務省「家計調査報告」

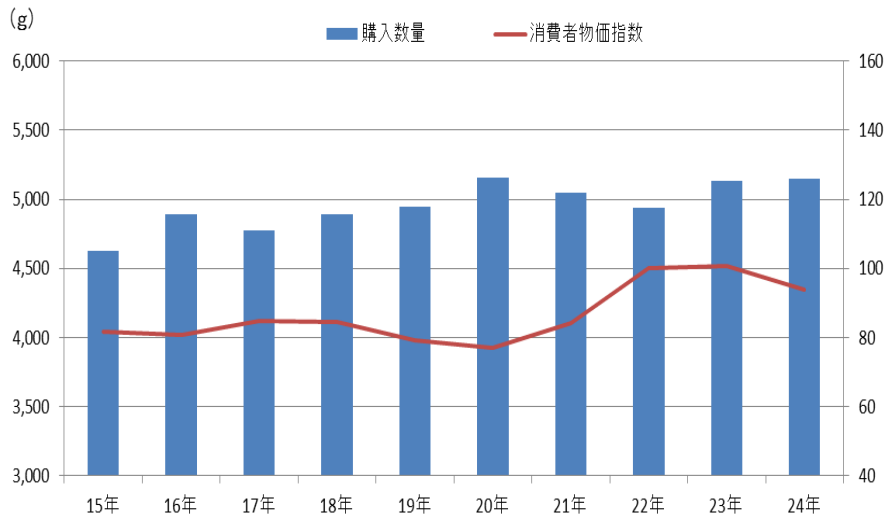
■ 23-24年 ■ 24-25年 ◆ 対前年比(%)

3 1人当たり年間購入数量等の推移

- ・ 生鮮野菜の1人当たり年間購入数量は、年によって変動が見られるが、消費者物価指数が高くなると、購入数量が少なくなる傾向がみられる。
- ・ 品目別に見ると、だいこんを除いて、概ね増加又は横ばい傾向となっている。
- ・ だいこんは減少傾向で推移しており、特に50歳以上の年齢階級で減少幅が大きく、49歳以下の購入数量が極端に少ない。



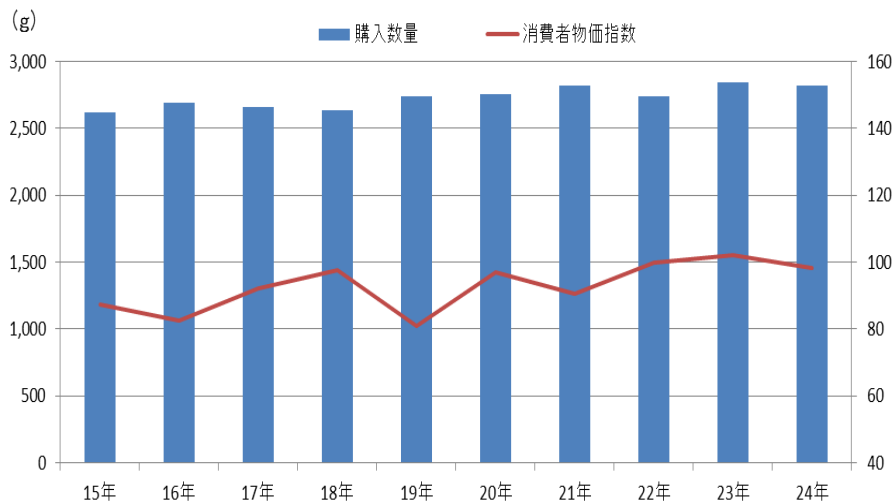
たまねぎの1人当たり年間購入数量及び消費者物価指数の推移



資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」、「消費者物価指数」

注:指数の基準は平成22年

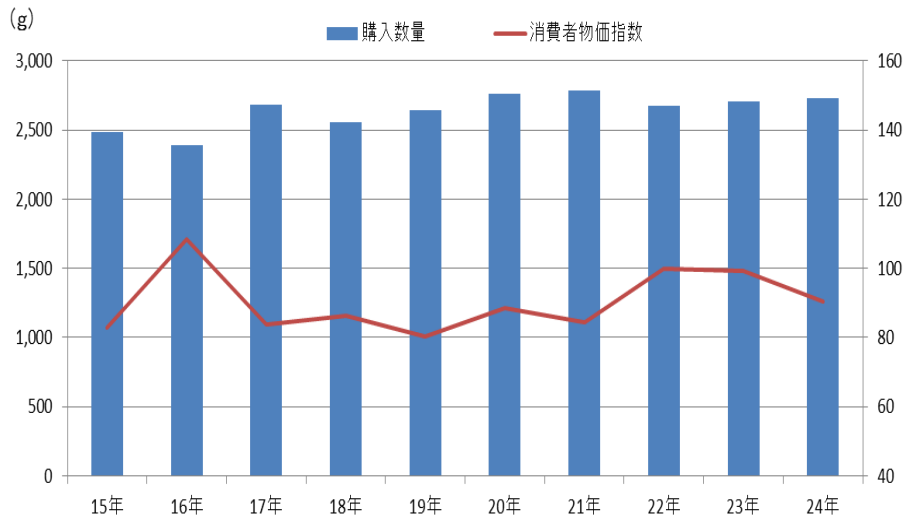
にんじんの1人当たり年間購入数量及び消費者物価指数の推移



資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」、「消費者物価指数」

注:指数の基準は平成22年

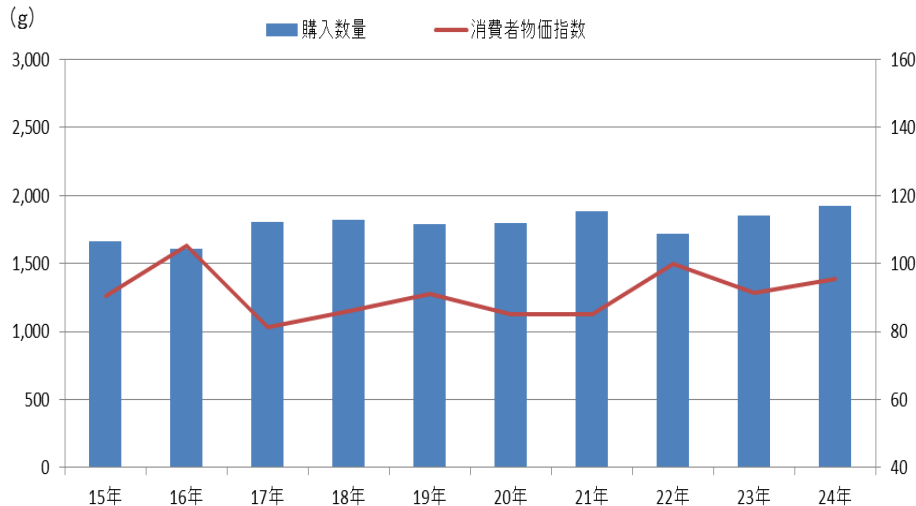
はくさいの1人当たり年間購入数量及び消費者物価指数の推移



資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」、「消費者物価指数」

注:指数の基準は平成22年

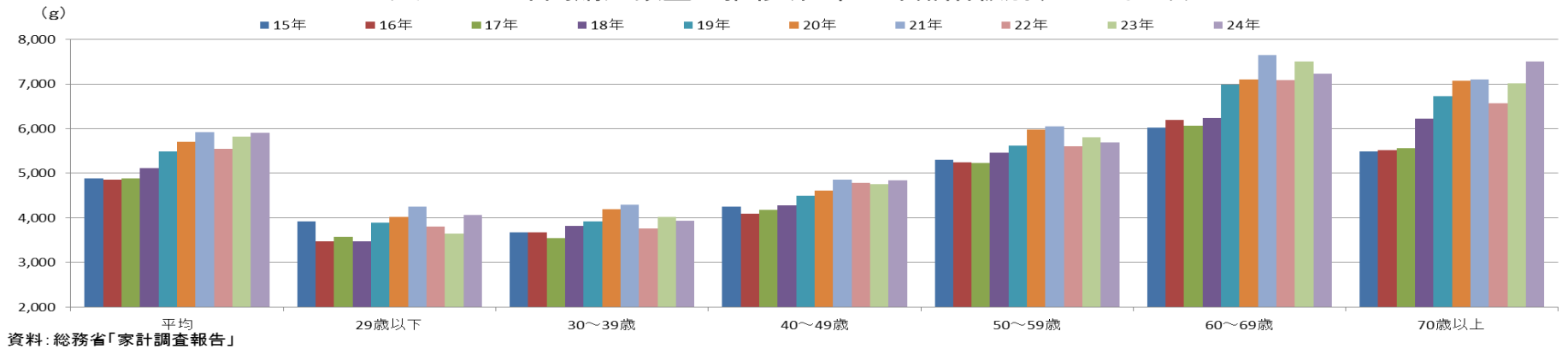
レタスの1人当たり年間購入数量及び消費者物価指数の推移



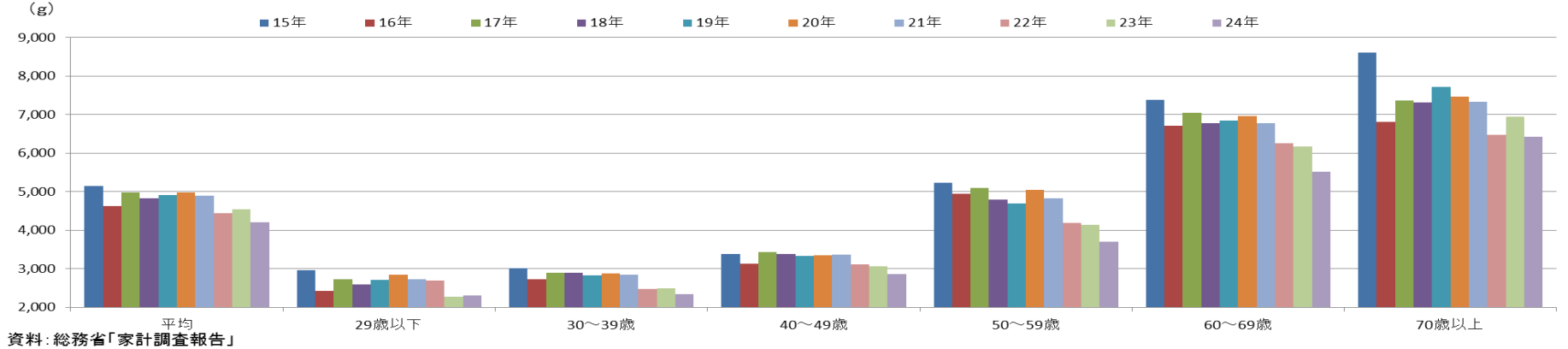
資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」、「消費者物価指数」

注:指数の基準は平成22年

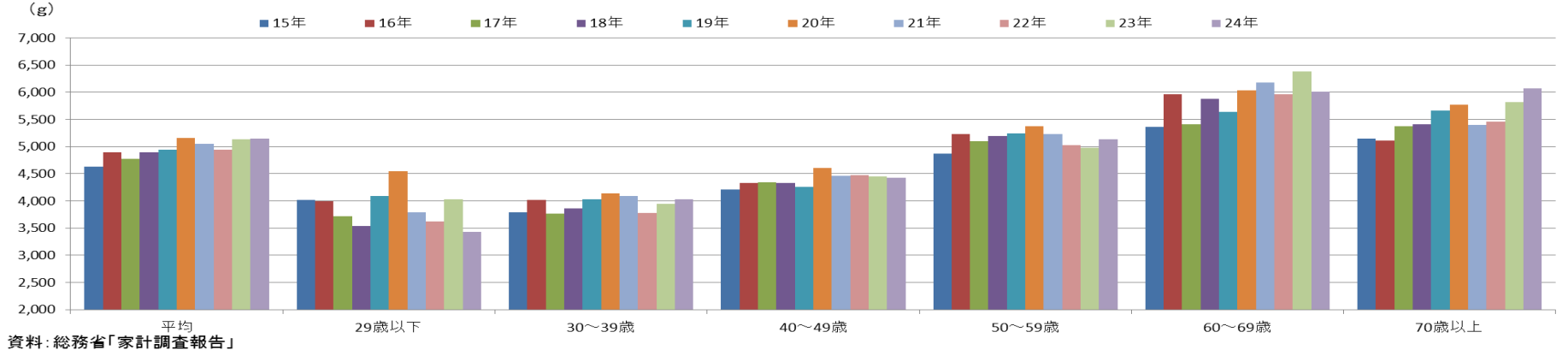
キャベツの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



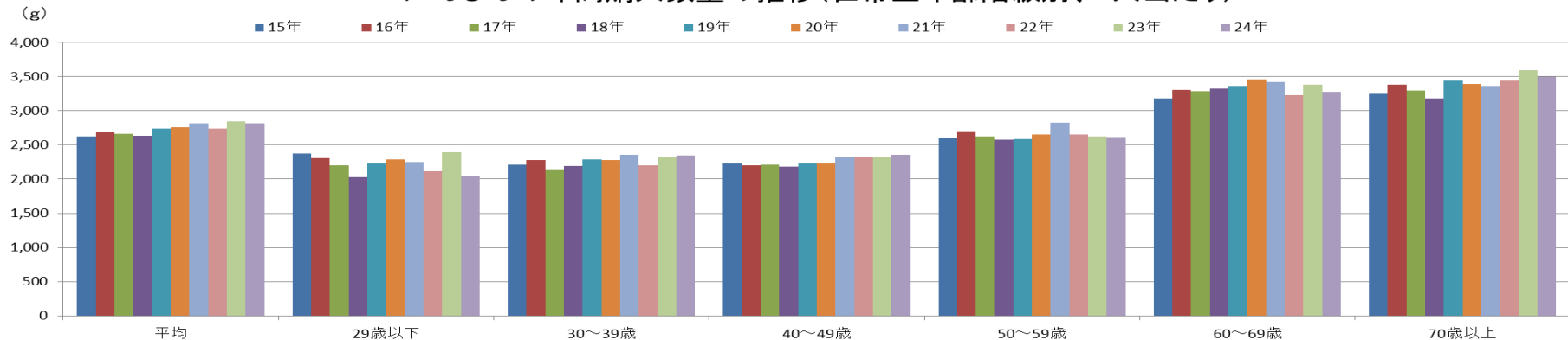
だいこんの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



たまねぎの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)

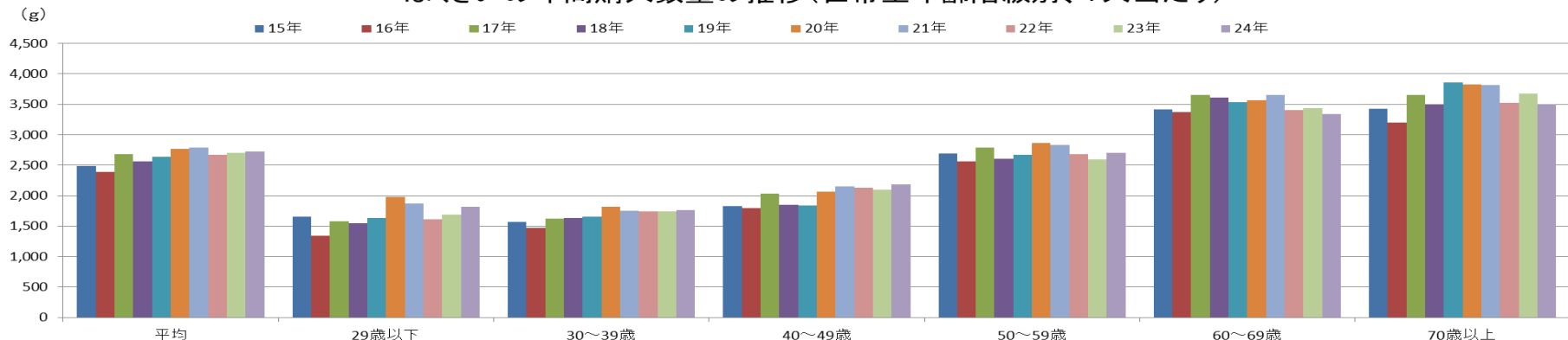


にんじんの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



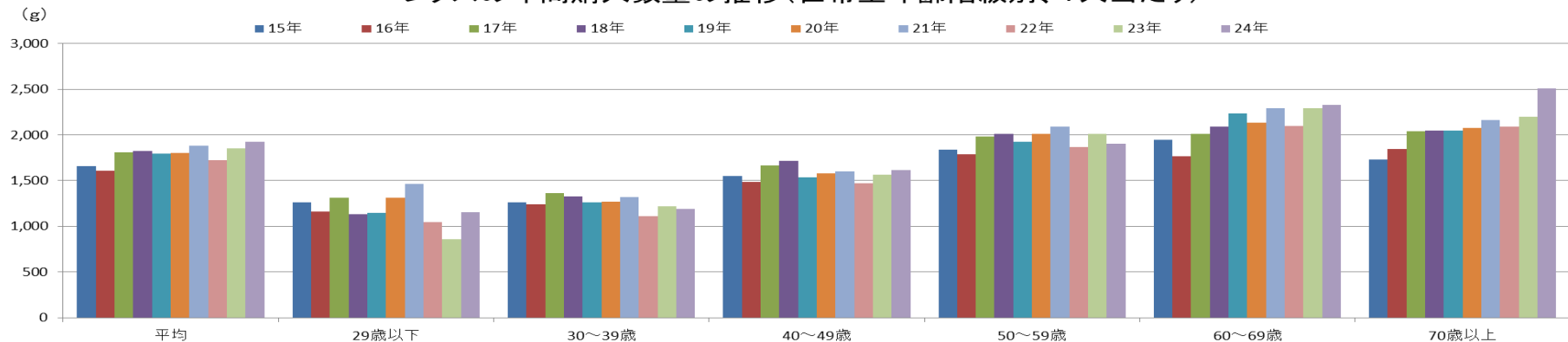
資料:総務省「家計調査報告」

はくさいの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



資料:総務省「家計調査報告」

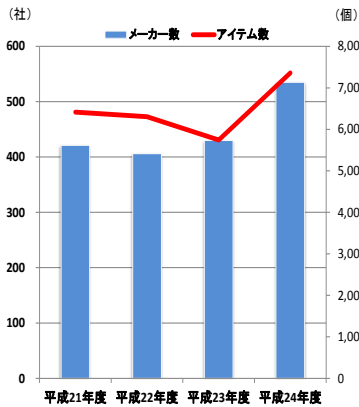
レタスの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



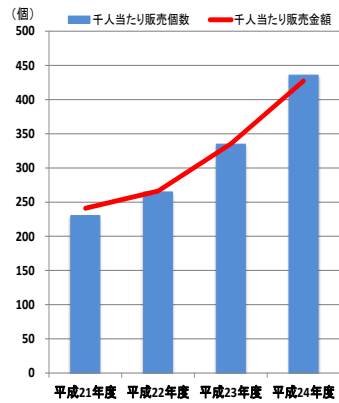
資料:総務省「家計調査報告」

カット野菜の小売動向について

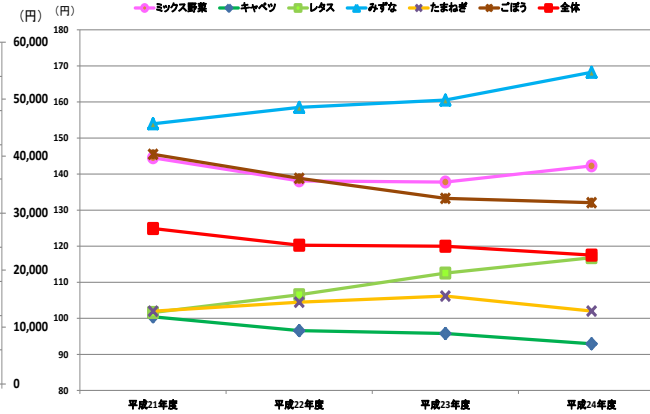
カット野菜のメーカー数とアイテム数の推移



カット野菜の千人当たりの販売個数と金額の推移



カット野菜の主な品目の平均価格の推移(平成21~24年度)

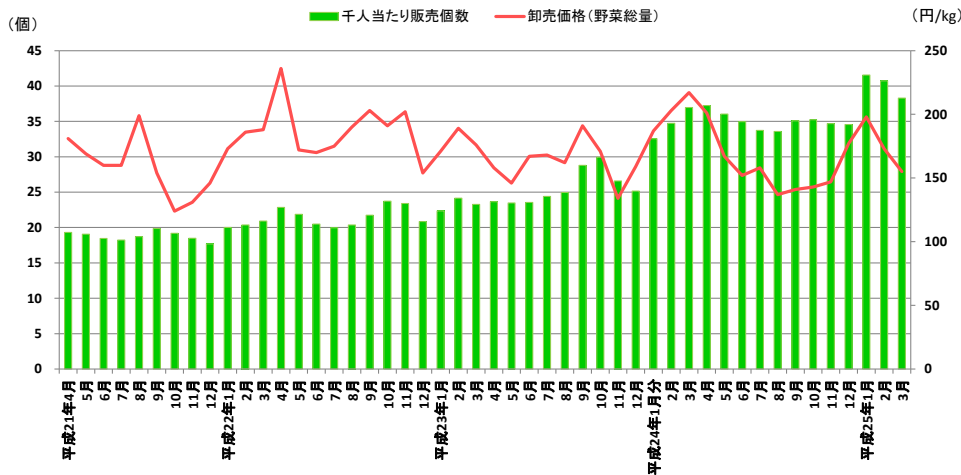


資料:農畜産業振興機構「カット野菜小売販売動向調査」

注:平均価格は、品目別又は全体の販売金額を販売個数で除したものである。

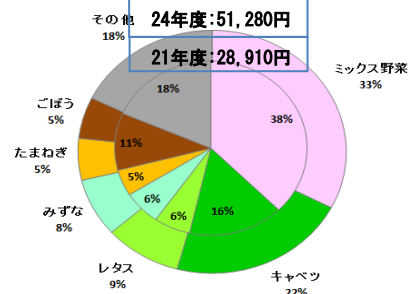
資料:農畜産業振興機構「カット野菜小売販売動向調査」

カット野菜の千人当たりの販売個数と生鮮野菜の価格の月別推移(平成21~24年度)



(円/kg)

カット野菜の千人当たりの販売金額品の品目別の比率(平成21年度と24年度の比較)



1. カット野菜小売動向調査におけるカット野菜は、スーパー等の生鮮野菜の売り場や総菜売り場で販売されているカット野菜(きざみ野菜、ミックス野菜及び葉もの中心のサラダを含む。)と調理用カット野菜(鍋セット、野菜炒めセット及びつまものセット)である。ただし、2分の1カットや4分の1カット等単価の減速等のためにカットした野菜を除く。
2. 収集POSデータは、日経POSデータであり、全国のスーパーマーケット(約156チェーン、約683店舗)を対象としている。
3. 「サラダ」の категорияに属するPOSデータと「その他農産」の категорияに属するPOSデータを収集し、野菜中心のサラダと調理用野菜を抽出した。
4. 品目別データの抽出に当たっては、商品名の最初にくる品目をキーワードとして、品目別に抽出し、品目別に分類できないものはミックス野菜としている。

平成21~24年度の量販店等におけるカット野菜のPOS(販売時点情報管理)データから、近年需要の伸びが注目されているカット野菜の小売動向を探ってみました。

メーカー数及びアイテム数は、平成24年度に大きく増加している。一方、千人当たりの販売個数と販売金額は、年を追うごとに大きく増加している。

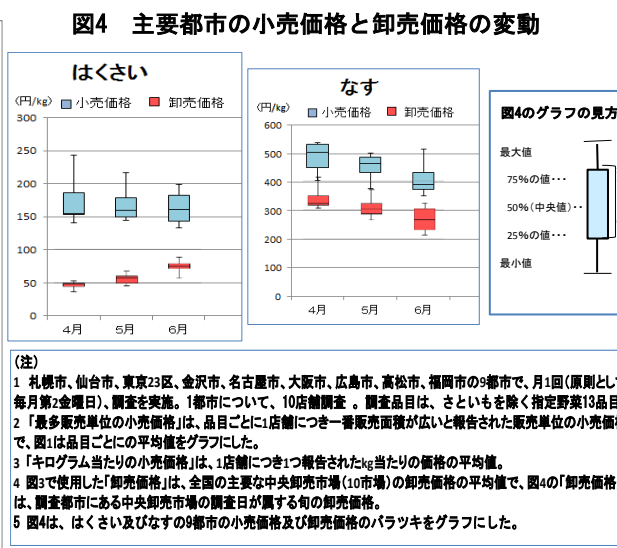
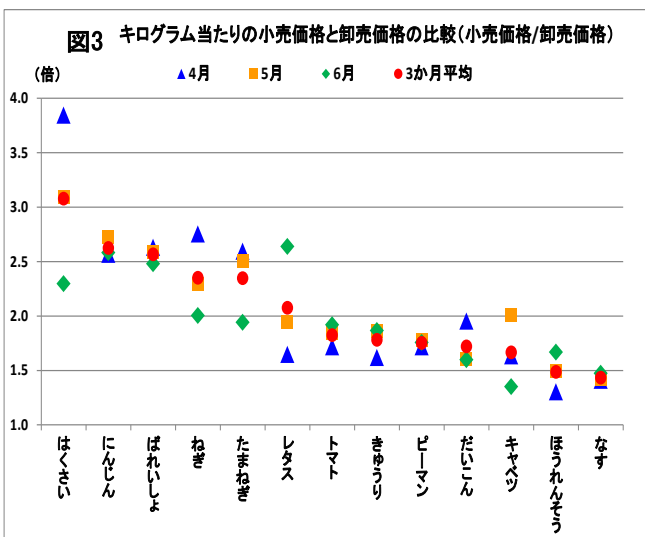
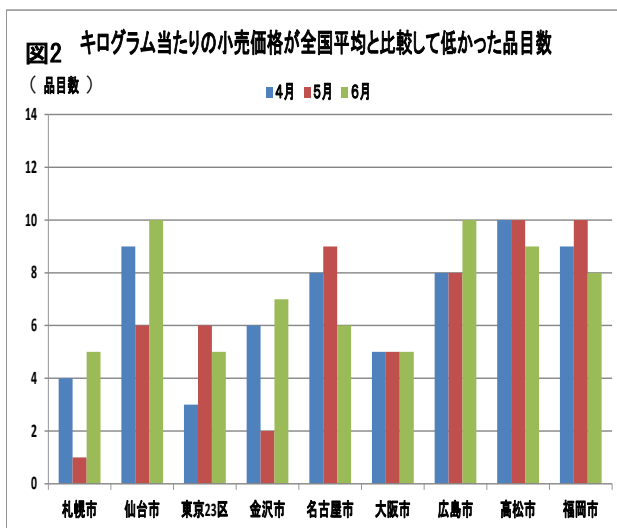
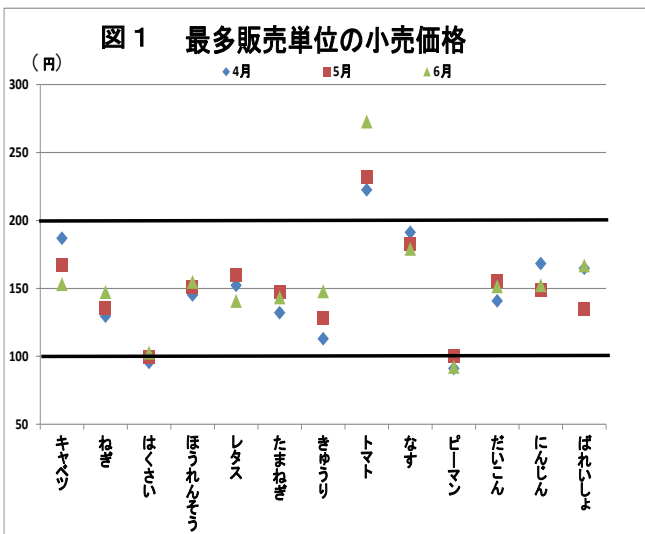
そうした中、主な品目の平均価格の推移を見ると、みずなとレタスは上昇傾向であるものの、全体的には価格がやや下がる傾向にある。

また、千人当たりの販売金額の品目別の比率を見ると、平成24年度では、ミックス野菜が一番高く、次いで、キャベツ、レタス、みずなの順になっており、平成21年度と比較すると、ミックス野菜及びごぼうの比率が低くなり、キャベツ、レタス及びみずなの比率が高くなっている。

カット野菜は、これまで生鮮野菜の価格が高い時に代替品として販売が伸びると言われていた。カット野菜の販売個数と生鮮野菜の卸売価格の推移を見ると、平成23年ぐらいまではそのことが当てはまる。

しかし、平成24年以降は、卸売価格の高騰にあわせてカット野菜の販売個数の水準が上がり、かつ、卸売価格が下落しても販売個数はそれ程減少していない。簡便化志向の中で使いきりのできるカット野菜の利便性を知り、カット野菜の利用が定着して、需要が拡大していると最近言われるようになったが、そのことが十分に伺える推移となっている。

野菜の小売価格について



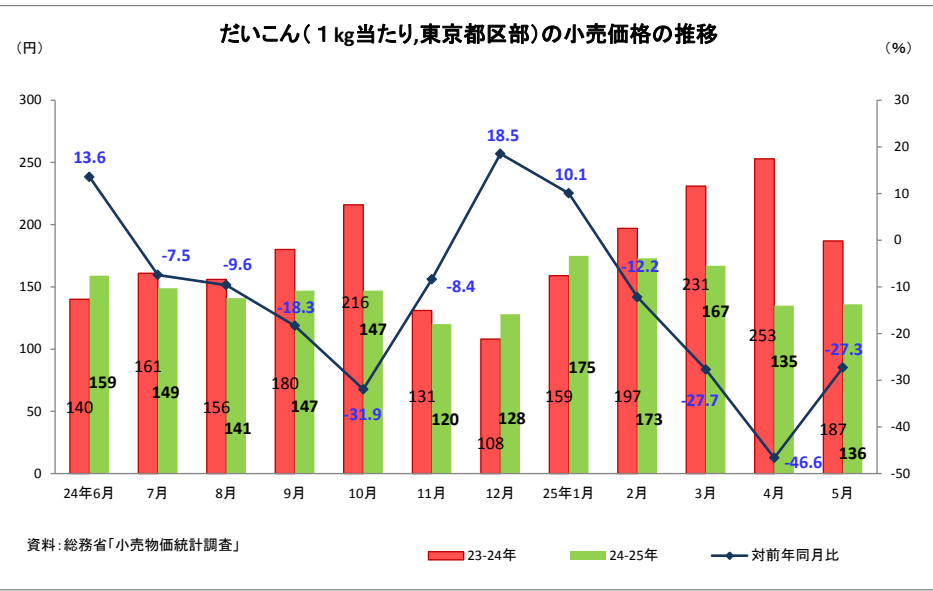
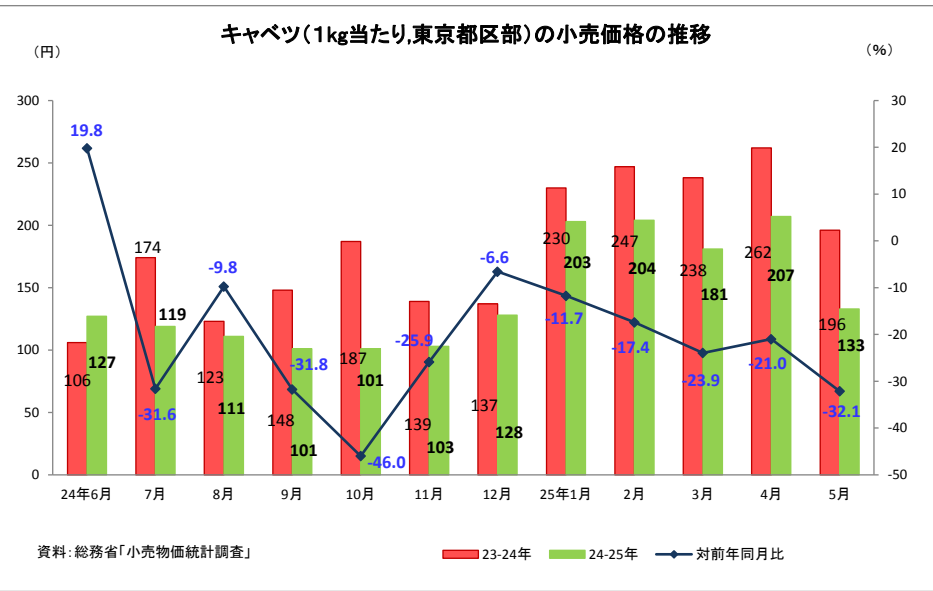
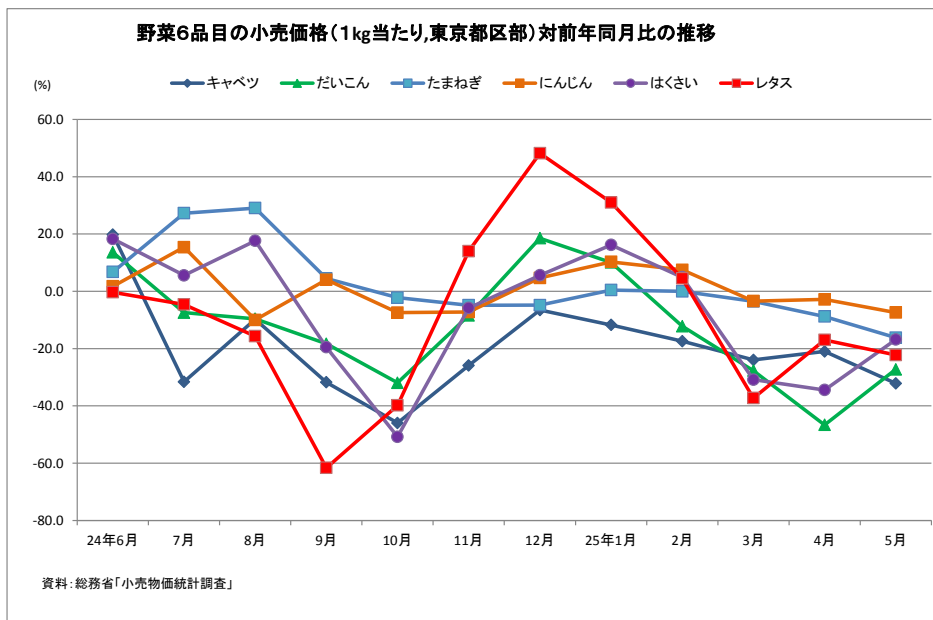
本年4月から主要9都市における野菜の小売価格の調査を行っており、6月までの3か月の動向について見てみた。最多販売単位の小売価格は、トマト以外の野菜は、おおむね100~200円の範囲内であった。野菜は、調理の素材として利用されることが多いが、値頃感がおおむね100円台に設定されていることがわかる。一方、トマトは、200円台で販売されており、他の野菜よりも高く販売されている。

また、主要9都市のキログラム当たりの小売価格を全国平均と比較すると、名古屋、広島、高松、福岡等が全国より低い品目が多い傾向が見られるが、この時期の産地が東海や西日本に多いことも一因ではないかと考えられる。

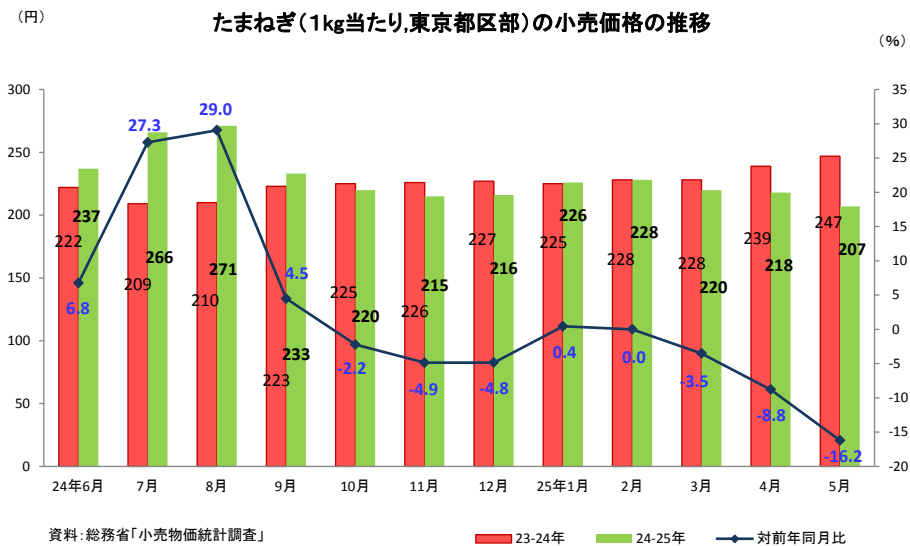
なお、キログラム当たりの小売価格を同時期の卸売価格で除して比較すると、この3か月間では、はくさいが一番倍率が高く、次いで、にんじん、ばれいしょの順となっている。一方、なすやほうれんそうは、低くなっている。また、変動が大きいのは、はくさい、レタス、キャベツ等の葉茎菜類で、なす、ピーマン等の果菜類、ばれいしょ、にんじん等は変動が小さい状況が見られる。これは、販売単位ごとの小売価格を値頃感のある範囲に納める必要がある中で、どちらかというと葉茎菜類は販売単位の変更がしにくいものの、果菜類等は販売単位の変更がしやすいことも影響しているものと考えられる。野菜の小売価格については、今後も引き続き調査することとしており、いろいろな場面で活用していただきたい。

4 小売価格の推移

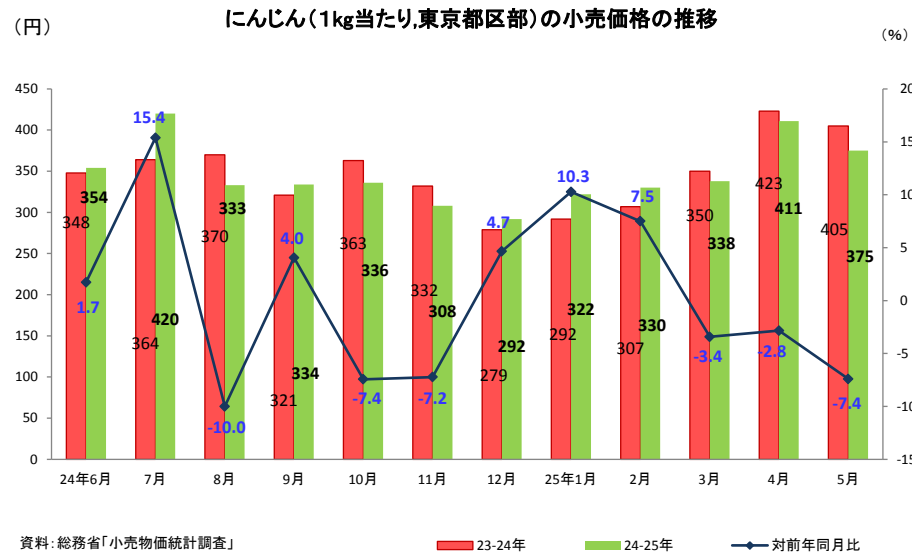
- 冬場の低温の影響から、レタスは、11～2月にかけて愛知県産及び千葉県産の出荷量が減少し、だいこんは、12月及び1月に千葉県産及び神奈川県産の出荷量が減少したため、前年を上回った。また、はくさいは、12～2月にかけて消費が活発になったため、前年を上回った。
- キャベツは、前年が低温・少雨等の影響により生育が停滞し高値であったことから、6月を除き前年を下回った。また、10月は、前年、群馬県産が降雨の影響により病害が発生し高値であったため、大幅に下回った。
- たまねぎは、府県産が不作であったことから、6～9月は前年を上回った。10月以降の北海道産、4月以降の佐賀県産が順調に出荷されたことから、出荷量が増加したため、1月及び2月を除き、前年を下回った。
- にんじんは、1年を通して順調に出荷されたことから、おおむね前年並みとなった。



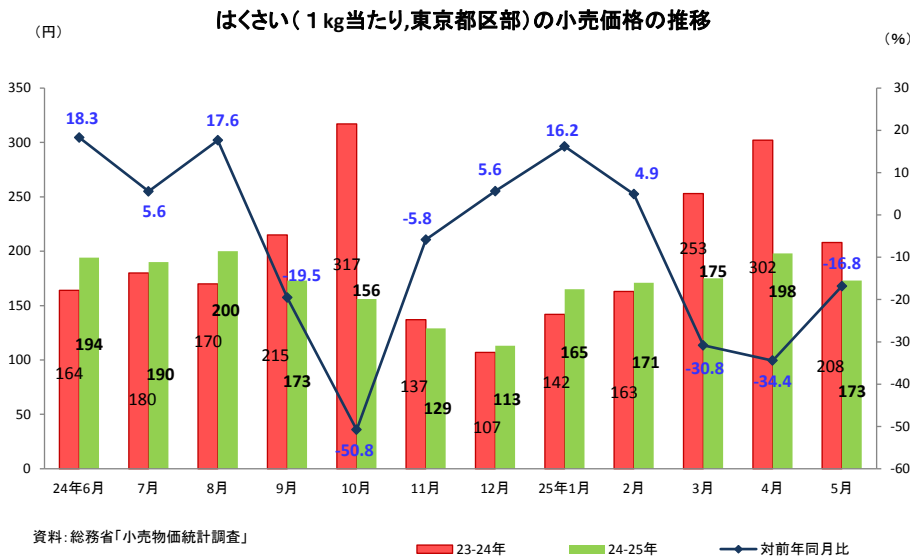
たまねぎ(1kg当たり,東京都区部)の小売価格の推移



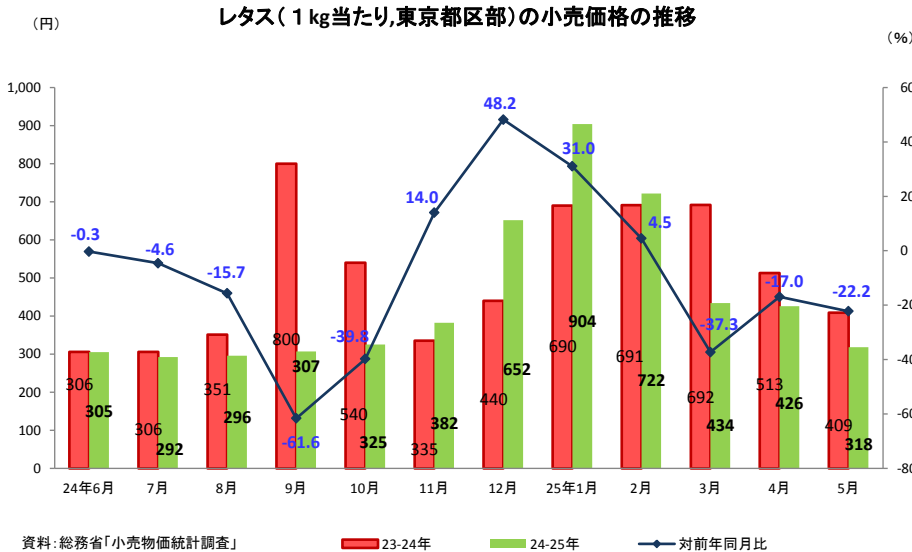
にんじん(1kg当たり,東京都区部)の小売価格の推移



はくさい(1kg当たり,東京都区部)の小売価格の推移

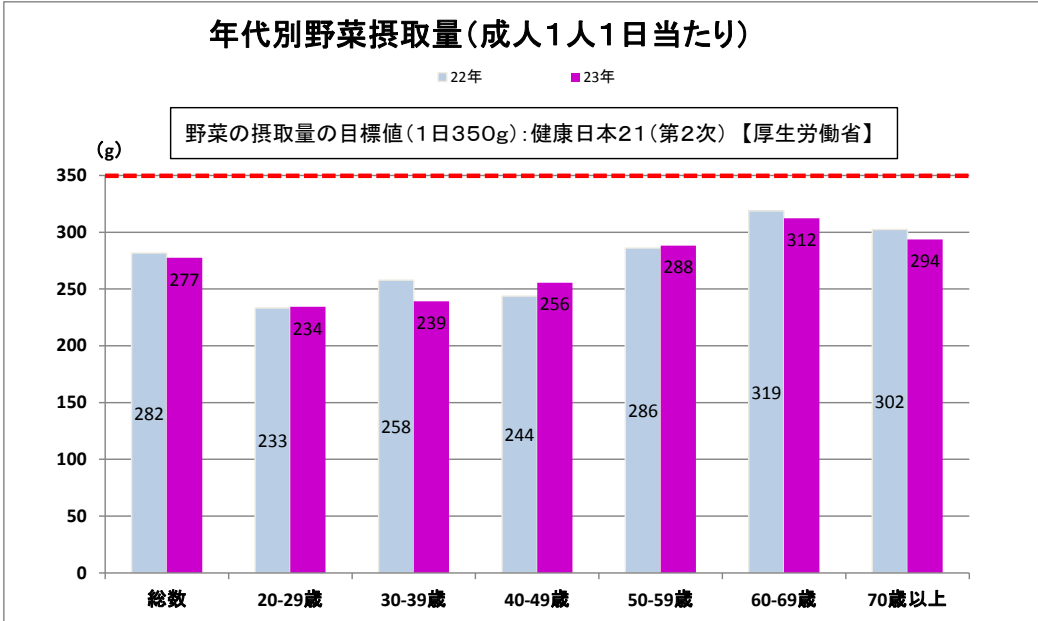


レタス(1kg当たり,東京都区部)の小売価格の推移

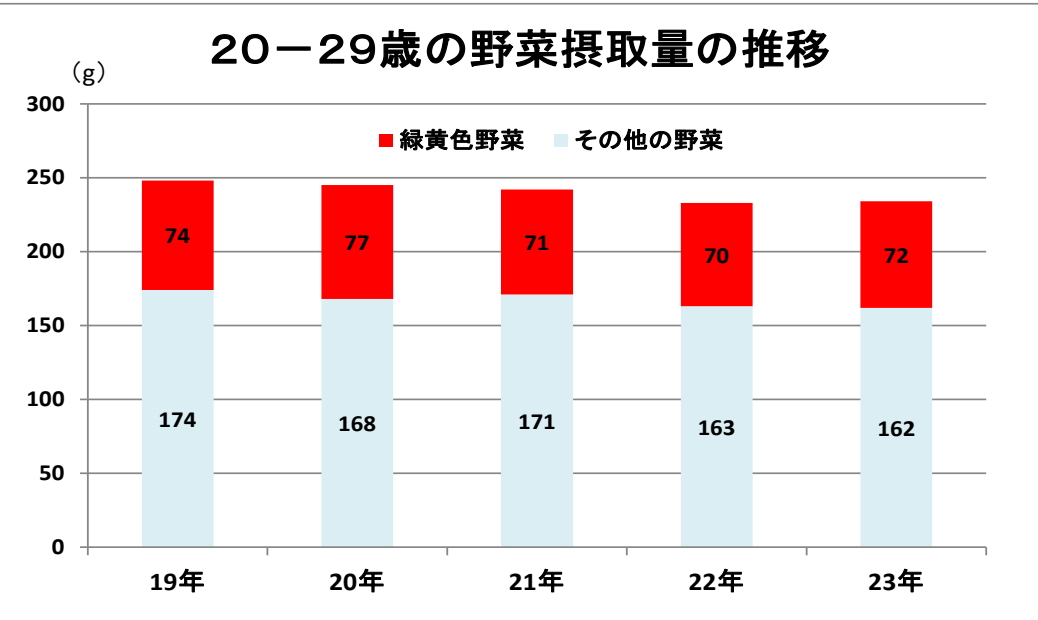


5 野菜の年齢階級別摂取量

・平成23年の成人1人1日当たりの野菜摂取量は、前年に比べて5g減少して277g（前年比98%）となった。また、依然として、20代、30代及び40代が少ない水準となっている。



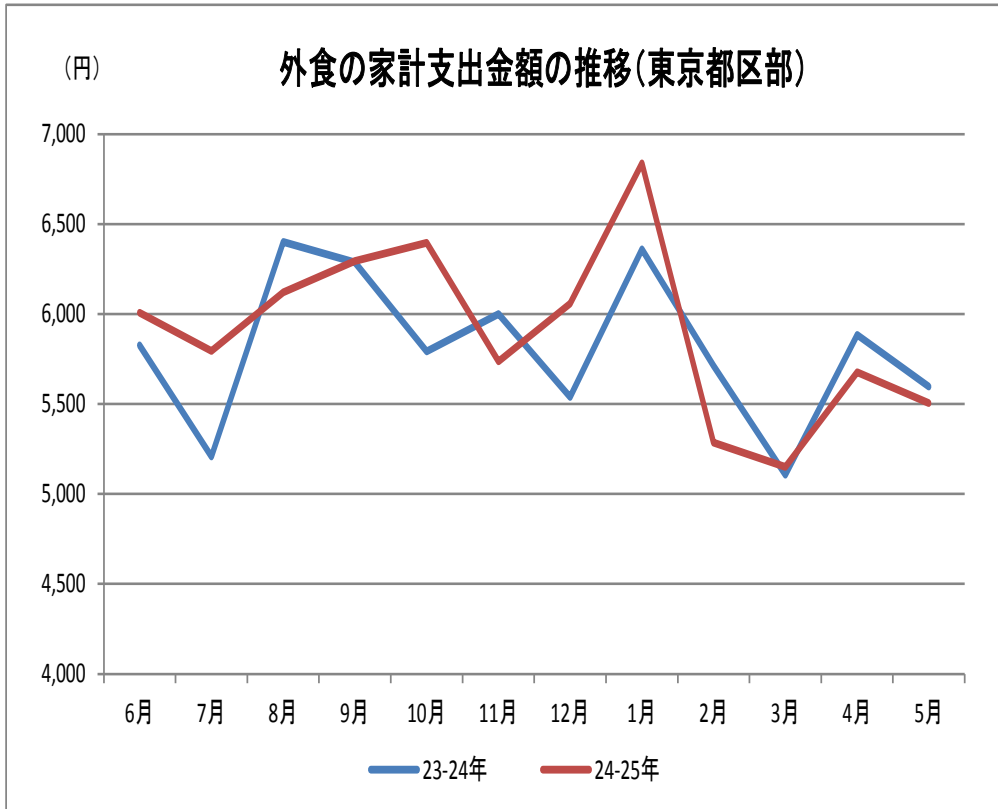
・摂取量が一番少ない20代の野菜摂取量は、年々減少傾向となっていたが、平成23年は、ほぼ前年並みとなった。



資料:厚生労働省「国民健康・栄養調査結果」

6 業務用需要の推移

(1) 外食の家計支出の推移



家計調査(東京都区部)

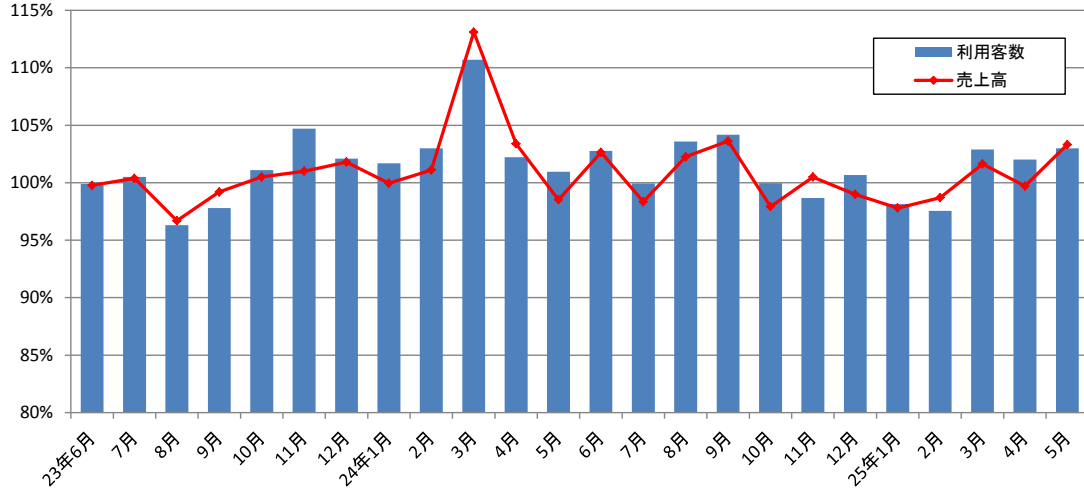
品目分類	24.5支出金額	25.5支出金額	対前年同月比
世帯人員	2.97	3.00	—
消費支出 <①>	313,410	318,796	102%
食料 <②>	80,682	81,185	101%
外食 <③>	17,845	17,809	100%
消費支出に占める割合(%) <④=③/①>	5.7	5.6	98%
食料に占める割合 <⑤=③/②>	22.1	21.9	99%

- ・ 5月の1人当たりの外食に対する家計支出金額は、一部の地域を除き、おおむね晴れの日が多かったことから、ほぼ前年並みとなった。

資料：総務省「家計調査(二人以上の世帯、東京都区部・全国)」

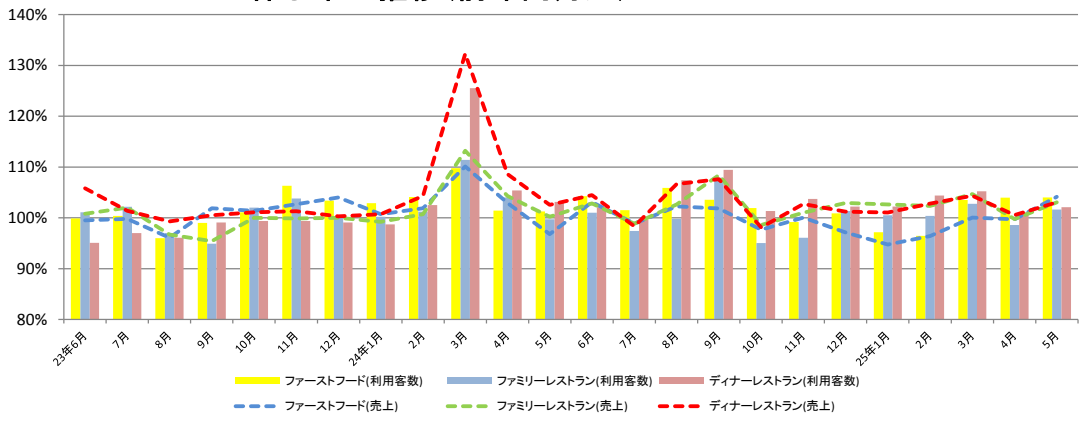
(2) 外食店の売上高及び利用客数の推移

外食産業の売上高及び利用客数の伸び率の推移(前年同月比)



・外食店の売上高及び利用客数は、平成25年1月は全国的な寒さと大雪の影響、2月は前年が閏年のため日数が少なかったこともあり前年を下回ったが、3月に入り東日本以西は温暖な日々が続き、5月はおおむね晴れの日が多く、ゴールデンウィークや母の日以降の利用もあったことで前年を上回った。

外食産業の業態別の売上高及び利用客数の伸び率の推移(前年同月比)



・業態別に見ると、ファーストフードは、平成24年12月から平成25年2月にかけて、大雪や降雨の影響から売上高は前年を下回り、3月から気温上昇で前年を上回った。ファミリーレストランは、平成24年12月から平成25年3月及び5月の売上高、利用客数ともに前年を上回った。ディナーレストランは、平成24年11月以降、売上高、利用客数ともに7か月連続して前年を上回って推移している。

資料：社団法人日本フードサービス協会「全店時系列データ」

7 今後の天気

1. 向こう1ヶ月(6月15日～7月14日)

- ・気温は、1・3・4週目は、北・東・西日本では平年より高くなる見込み。2週目は、北日本は平年並みか低くなり、東・西日本は平年並みの見込み。
- ・降水量は、北日本は日本海洋側及び太平洋側では平年より多くなる見込み。東・西日本は日本海側及太平洋側では平年並みとなる見込み。

2. 6月～8月

○6月

- ・気温は、北・東日本では平年並みとなる見込み。西日本では平年より高くなる見込み。
- ・降水量は、北日本では平年並みとなる見込み。東・西日本では平年並みか多くなる見込み。

○7月

- ・気温は、北・東・西日本では平年並みか高くなる見込み。
- ・降水量は、北・東・西日本では平年より少なくなる見込み。

○8月

- ・気温は、北・東・西日本では平年並みか高くなる見込み。
- ・降水量は、北・東・西日本では平年並みか少なくなる見込み。

3. 6月～8月

- ・気温は、北・東・西日本では平年並みか高くなる見込み。
- ・降水量は、北日本では平年並みか少なくなる見込み。東・西日本では平年並みの見込み。

4. エルニーニョ/ラニーニャ現象

- ・エルニーニョ監視海域の海面水温は平年の値に近く、この夏はエルニーニョ/ラニーニャ現象が発生しないと見込まれる。

出典:「全般1ヶ月予報解説資料(平成25年6月14日気象庁地球環境・海洋部)

「全般3ヶ月予報(6月～8月)解説資料」(平成25年5月23日気象庁地球環境・海洋部)

「全般暖候期予報解説資料(平成25年2月25日気象庁地球環境・海洋部)

(参考)

◎1ヶ月(6月15日～7月14日)予報に見る確率

気温	1週目(%)			2週目(%)			3～4週目(%)		
	低	並	高	低	並	高	低	並	高
北日本	10	20	70	40	40	20	30	30	40
東日本	10	10	80	30	40	30	30	30	40
西日本	10	20	70	30	40	30	30	30	40
沖縄・奄美	10	20	70	20	30	50	30	30	40

	気温(%)				降水量(%)			日照時間(%)		
	低	並	高		少	並	多	少	並	多
北日本	20	40	40	日本海側	30	30	40	40	30	30
				太平洋側	30	30	40	40	30	30
東日本	20	30	50	日本海側	30	40	30	30	40	30
				太平洋側	30	40	30	30	40	30
西日本	20	30	50	日本海側	30	40	30	30	40	30
				太平洋側	30	40	30	30	40	30
沖縄・奄美	10	40	50		30	30	40	30	30	40

◎3ヶ月(6～8月)予報に見る確率

気温	3か月			6月			7月			8月		
	低	並	高	低	並	高	低	並	高	低	並	高
北日本	20	40	40	30	40	30	20	40	40	20	40	40
東日本	20	40	40	30	40	30	20	40	40	20	40	40
西日本	20	40	40	30	30	40	20	40	40	20	40	40
沖縄・奄美	30	30	40	20	40	40	30	40	30	30	40	30

降水量		3か月			6月			7月			8月		
		少	並	多	少	並	多	少	並	多	少	並	多
北日本	日本海側	40	40	20	30	40	30	40	30	30	40	40	20
	太平洋側	40	40	20	30	40	30	40	30	30	40	40	20
東日本	日本海側	30	40	30	20	40	40	40	30	30	40	40	20
	太平洋側	30	40	30	20	40	40	40	30	30	40	40	20
西日本	日本海側	30	40	30	20	40	40	40	30	30	40	40	20
	太平洋側	30	40	30	20	40	40	40	30	30	40	40	20
沖縄・奄美		30	30	40	40	30	30	30	30	40	30	30	40

注:「低 並 高」、「少 並 多」は、それぞれ平年との比較

出典:「全般1ヶ月予報解説資料(平成25年3月1日気象庁地球環境・海洋部)

「全般3ヶ月予報(3月～5月)解説資料」(平成25年2月25日気象庁地球環境・海洋部)

◎ 暖候期予報(6月～8月)に見る確率

		気温 (%)			降水量 (%)			梅雨降水量 (%)		
		低	並	高	少	並	多	少	並	多
北日本	日本海側	20	40	40	40	30	30	40	30	30
	太平洋側	20	40	40	40	30	30	40	30	30
東日本	日本海側	20	40	40	40	30	30	40	30	30
	太平洋側	20	40	40	40	30	30	40	30	30
西日本	日本海側	20	40	40	30	40	30	30	40	30
	太平洋側	20	40	40	30	40	30	30	40	30
沖縄・奄美		30	40	30	20	40	40	30	40	30

注:「低 並 高」、「少 並 多」は、それぞれ平年との比較

出典:「全般暖候予報解説資料」(平成25年2月25日気象庁地球環境・海洋部)